

研究主題 「書くこと」の活動における「表現の能力」を高める英語の指導方法の研究 - 教科書の本文を活用した指導方法の工夫 -

東京都教職員研修センター 研修部 授業力向上課
墨田区立本所中学校 教諭 角田幸彦

研究のねらい

現行の学習指導要領では音声によるコミュニケーション能力の育成に重点が置かれ、その目標には「聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う。」と明記された。週3時間の限られた時間の中では「聞くこと」、「話すこと」に重点を置けば、必然的に「読むこと」、「書くこと」の指導時間が少なくなる。そこで、各校においては家庭学習を工夫するなどの対策を講じてきた。家庭学習はドリル的なものが中心となることが多いので、「言語や文化についての知識・理解」についてはある程度の定着が期待できる。しかし、「表現の能力」に関しては教員の支援なしに高めることは難しいと思われる。

さらに、平成16年度と平成17年度の「児童・生徒の学力向上を図るための調査報告書」(東京都教育委員会)では、内容では「書くこと」、観点では「表現の能力」において課題が指摘されている。

そこで本研究では、「書くこと」の活動における「表現の能力」を高めるための指導方法と教材を開発することをねらいとする。

研究の内容と方法

1 基礎研究・先行研究

(1) 現状について

平成16年度及び平成17年度児童・生徒の学力向上を図るための調査報告書(東京都教育委員会)では次のように述べている。(%)は全都平均正答率)

内容ごと

平成16年度の調査では「書くこと」が一番低い正答率となっており、課題としては「他の言語活動との関連を図った日常的、横断的な指導の必要性」が挙げられている。平成17年度の調査では正答率が向上しているが、「およそ10%の無解答率があることを考慮に入れると、「英文を書く」ことに抵抗を感じている生徒も少なくないように考えられるため、さらに指導の工夫をする必要がある。」と分析されている。

内容ごと	聞くこと	読むこと	書くこと	総合
平成16年度	68.0%	82.1%	64.5%	72.4%
平成17年度	63.9%	79.3%	72.4%	72.3%

観点ごと

「表現の能力」も平成16年度の調査では一番低い正答率になっている。

観点ごと	コミュニケーションに対する 関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
平成16年度	90.6%	61.8%	68.1%	74.4%
平成17年度	89.0%	64.2%	64.3%	79.4%

平成17年度の調査では若干向上しているが、良好な状況とはいえず、「日本語に過度にとらわれずに、文意を適切に伝える指導と、語いや基本的な文型・文法事項の定着を図る

指導の必要性」が挙げられている。

これらの課題を解決するためにはコミュニケーション活動を重視した授業の中でも、「書くこと」の指導を日常的、継続的に行い、生徒の「書くこと」に対する抵抗感・負担感を減らしていかなければならない。また、語いや基本的な文型・文法事項の定着を図る指導とともに、和文英訳に頼らずに文意を適切に伝えるための指導を行う必要がある。

(2) 指導方法と教材について

H.G.Widdowson(1995)は読解用テキストを活用して、「書くこと」の教材を作成することの有効性と作成方法について分析をしている。そして、「表現の能力」を高めるための教材作成の際には、コンテキスト(文脈)のコミュニケーション上の価値を生かさなければならぬと指摘している。

一番身近な読解用テキストは教科書である。これを活用することにより、日常的、継続的な指導が可能となる。さらに、コンテキストを生かすことによって、和文英訳に頼らない指導ができると考えられる。また、分からない問題があっても授業内容を思い出したり、教科書を読み返すことによってヒントを得ることができる。

2 仮説

「書くこと」に対する日常的、継続的な指導が不足し、生徒の負担感が大きくなっている現状と、教科書が「書くこと」の活動における「表現の能力」を高める教材として有用であるということから、仮説を次のように設定した。

教科書の本文を活用した、和文英訳に頼らない「書くこと」の指導を日常的、継続的に行えば、生徒の「書くこと」の活動における「表現の能力」を高めることができるであろう。

3 調査研究【補助資料1】

墨田区立中学校 12校の全2年生(対象約1,000人、回答837人)に対して、質問紙による調査を6月に行った。内容は「書くこと」の活動に対する意識と「英文を書く」際につまずき、生徒が希望する「書くこと」の活動に関してである。

「英語で文章を書くことは得意ですか」との問いには75.7%が「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」と答えているが、そのうちの83.6%は「もっと英語で文章を書けるようになりたい」と答えている。「書くこと」は得意でないと思っている生徒の大多数は「もっと書けるようになりたい」という意欲をもっている。しかし、「授業では英語で文章を書く活動を増やしてほしいですか」という問いに「そう思う」「少しそう思う」と答えた生徒は全体の46.7%で過半数に達していない。これは今までの「書くこと」の指導が一時的に集中する傾向にあり、生徒にとっては負担感が大きいことが原因の1つと考えられる。

4 検証授業

(1) ねらい

教科書の本文を活用した「書くこと」の活動における「表現の能力」を高めるためのタスク(コミュニケーション能力を育成するための課題)を作成、指導し、その有効性を検証する。

(2) タスクの作成【補助資料2】

タスクを作成する際の留意点は次の2点である。

記憶の確認や和文英訳ではなく、コンテキストや文法事項等を活用するものとする。
 生徒の取り組みやすさを考慮し、難易度を下記のように設定する。

易・タスクA コンテキストから判断する穴埋めや置き換え的なもの

↓
 ・タスクB 文法事項等を活用したり、設定された状況にしたがって表現をするもの

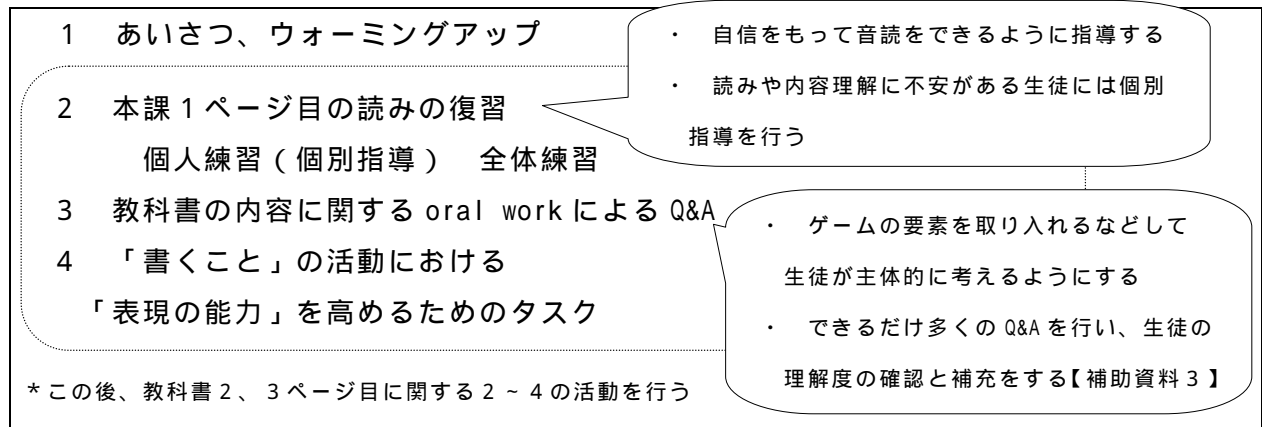
難・タスクC コンテキストを踏まえて、自分の感想や意見、考えを表現するもの

* 今回の授業に向けてはタスクAを2問、タスクBを6問、タスクCを1問作成した。

(3) 指導の流れ

今回は1回目の活動であるので、生徒が主体的に取り組めるようにするために本課（本文3ページ）の指導（合計7時間）の最後に総まとめとして行った。

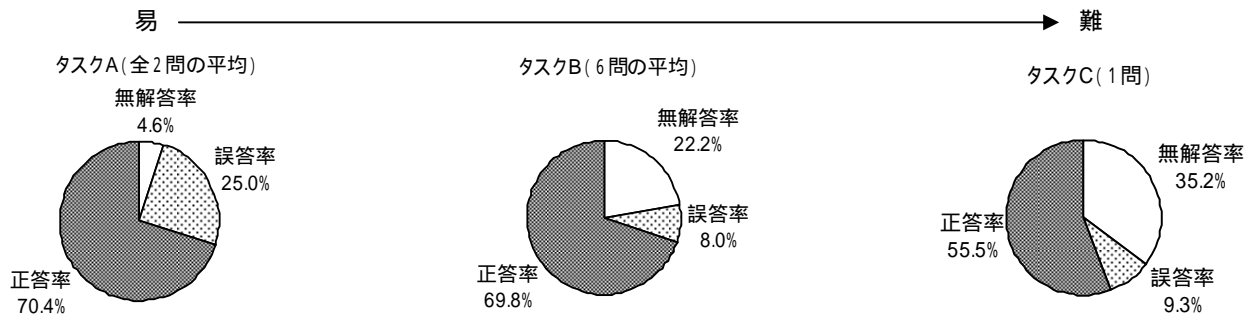
検証授業の指導の流れ



研究の結果と考察

1 正答率と無解答率

タスクの難易度（タスク作成上の留意点で設定したタスクA～タスクC）ごとの正答率と無解答率は次のようになっている。（対象は検証授業を行った54人）



*「表現の能力」を高めるための指導なので、些細な文法的誤りのみで文意が十分に伝わる解答は正答とした。

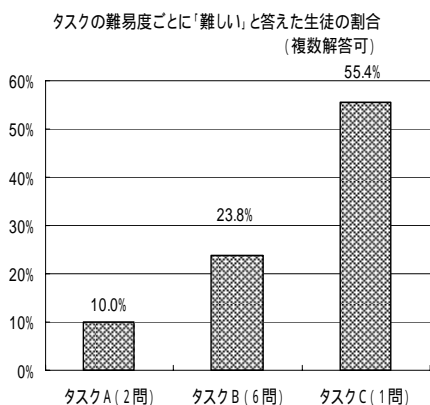
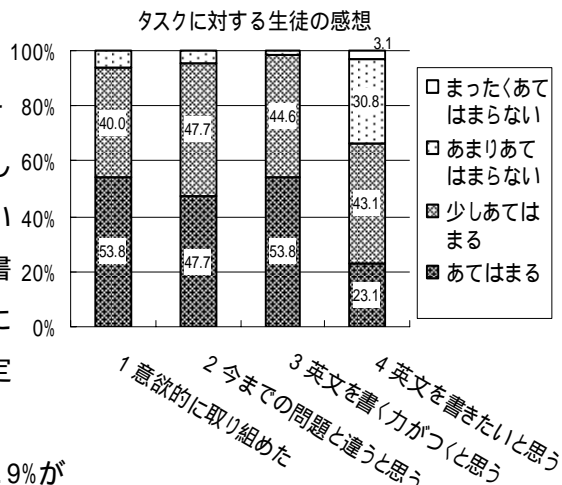
難易度が高くなるにしたがって、正答率は低くなり、無解答率は高くなっている。タスクAとタスクBでは正答率はほぼ同じ（70.4%と69.8%）であるが、解答を書きやすいタスクA（単語や記号で答える）では無解答が少なく、誤答が多くなっている。逆にタスクBでは文を考えて書かなければならないために無解答が多くなっている。

また、タスクBからタスクCでは無解答率が上がっている（22.2%から35.2%）が誤答率の差は小さい（8.0%と9.3%）。タスクCでは、初めからからあきらめてしまったり、自信をもてる段階まで頭の中で文を組み立ててから解答を書いたりした生徒が多かったためと思われる。

「書くこと」をあきらめずに書けることを用いて、書けることから表現していくことの重要性を教えなければならない。

2 タスクに対する生徒アンケート

1～3の質問に対しては90.0%以上の生徒が「あてはまる」「少しあてはまる」と答えた。意欲的に新しいタスクに取り組み、「表現の能力」を高めようという意識をもたせることができた。これは直前に教科書の音読とoral workによるQ&Aを十分に行ったことにより、教科書の内容と文法事項の両方がしっかりと定着していたためと思われる。



4の質問では33.9%が「あてはまらない」「まったくあてはまらない」と答えており、タスクCにおける無解答率とほぼ同じ数字になっている。また、今回実施した9問(A, B, Cの3段階)のタスクの中で「難しい」と感じたものはどれか(複数回答可)という質問では55.4%がタスクCを選んでいる。自分で文章を考えて表現することに負担を感じている生徒が多いことを表している。しかし、生徒の意欲は高いのでこの活動を日常的かつ継続的に行えば、負担感を軽くすることができるであろう。

3 まとめ

本研究では、生徒の「英語で文章を書けるようになりたい」という意欲が高いことが分かった。また、その反面の「書くこと」に対する負担感も確認できた。そして、教科書の本文を活用した「書くこと」の活動における「表現の能力」を高めるためのタスクを作成し、指導を行った。その結果、生徒の意欲をさらに高め、期待感をもたせて取り組ませることができ、以下の3点が明らかになった。

- 事前に音読やoral workを十分に行うことで、生徒は自信をもってタスクに臨むことができる。
- 教科書の本文を活用することで、あまり負担を感じずに、分からない場合には教科書からヒントを得ながら、あきらめずに取り組むことができる。
- タスクの配列を「易 難」とすることで達成感を感じ、意欲を高めながら取り組むことができる。

この活動は日常的、継続的な指導が可能なので、「表現の能力」を高めるために有効であると思われる。

今後の課題

生徒の意欲をさらに高め、無解答を減らすために、タスクごとの難易度をより細かく設定する必要がある。そして、このタスクを継続的に行う中で、まとまった分量の英文を書かせ、生徒一人一人の「表現の能力」がどのように変容していくかを検証する必要がある。

【補助資料 1】

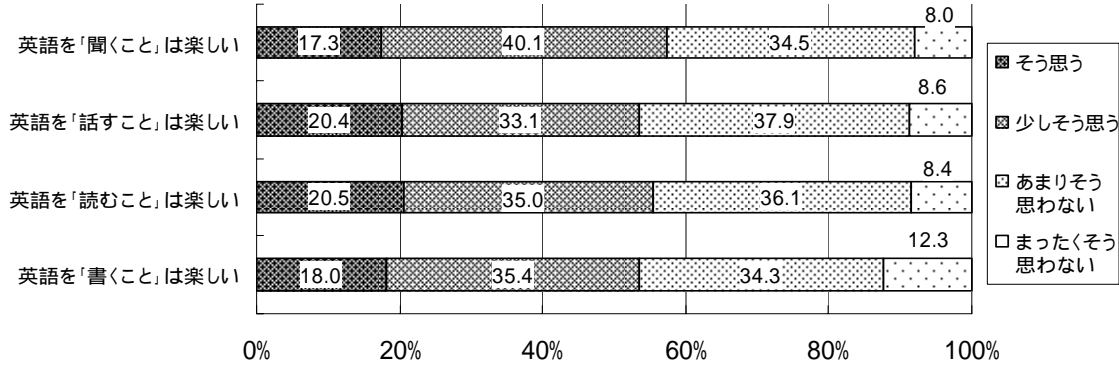
生徒に対する調査研究 対象：墨田区立中学校に在籍する2年生 約1,000人

回答数 837人

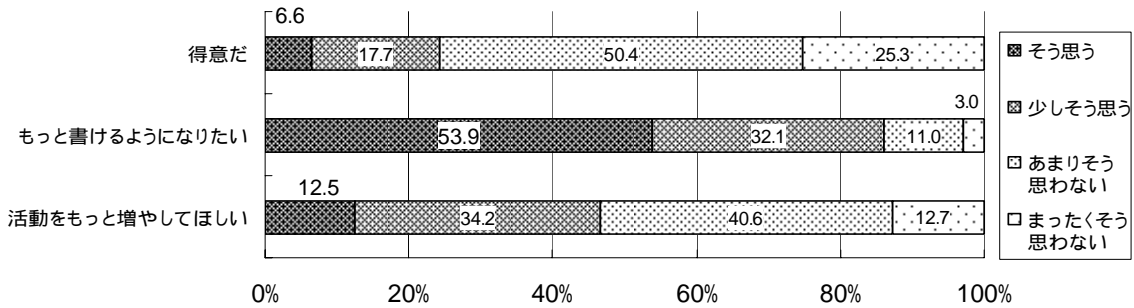
実施期間：平成18年6月5日～6月12日

*数値は小数点以下第2位を四捨五入

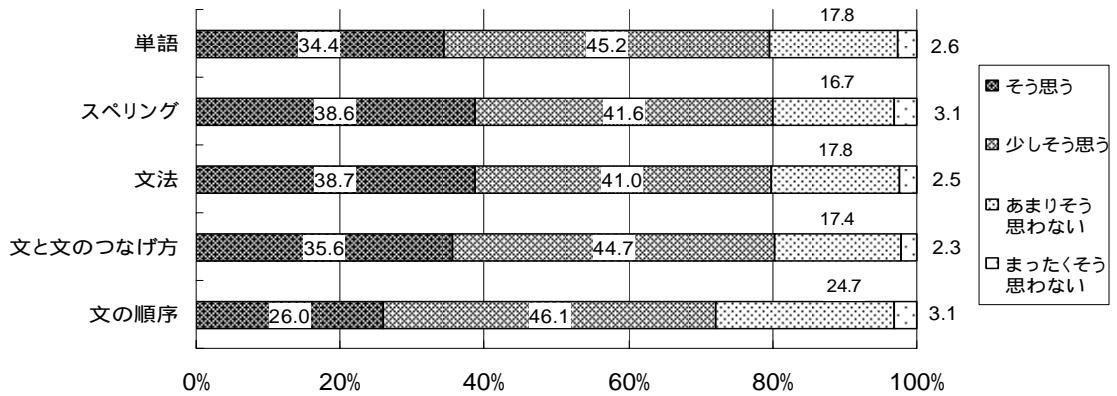
4技能に対する意識



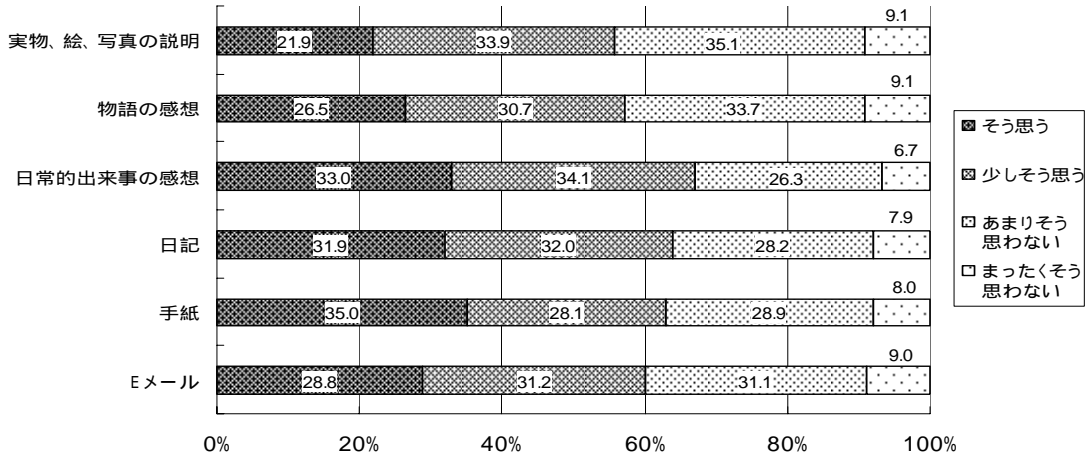
英語で文章を書くことに対する意識



「書くこと」において、つまづく段階



生徒が希望する「書くこと」の活動



【補助資料 2】

今回作成した「書くこと」の活動における「表現の能力」を高めるためのタスク」とその正答率等、「難しい」と感じた生徒の割合（複数回答可）及び正答率等に対する考察。

1

LESSON 3 At the Zoo part 1 (p.22)

Class () No. () Name ()

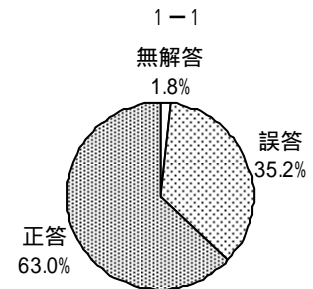
文のつながり 【タスク A】

このタスクを難しいと答えた生徒 3.1%

- 1 次の文は動物園のトラのおりの前に掲示してある文です。意味のつながりをよく考えて、ア～オの文を正しい順番に並べかえなさい。

- ア We are studying them and protecting them.
 イ Only 400 Sumatran Tigers remain in the world.
 ウ Buy one, and help us and the animals.
 エ They will disappear without our help.
 オ We sell cards at the zoo shop.

文章の正しい流れをとらえることができるかを確認するタスクである。並べかえなので「難しい」と感じた生徒は少ないが、実際には流れをとらえられない生徒が多い。「読むこと」の指導の際に文章の構成についても触れていく必要がある。

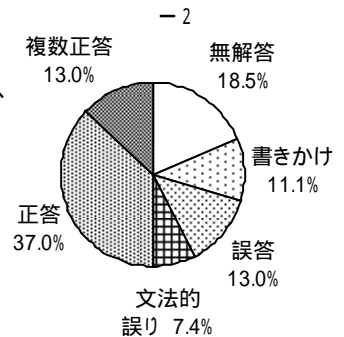


重要表現 【タスク B】

このタスクを難しいと答えた生徒 50.1%

- 2 4行目 They will disappear without our help. を参考にして、「_____なしでは_____である。」という文を1つ以上書きなさい。

without を使用できるかを確認するタスクである。oral work でも十分に練習したが、定着していない。教員が思っている以上に、生徒にとっては難しい言葉であることが分かる。言語使用につながる練習を積み重ねなければならない。



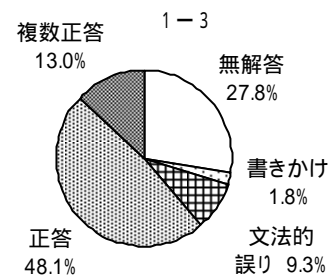
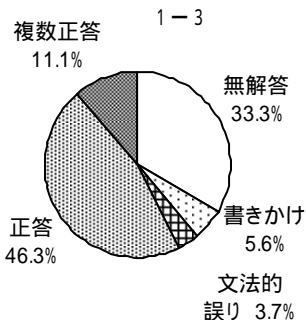
重要文型 【タスク B】

このタスクを難しいと答えた生徒 16.9%

- 3 次の2つの文を will を使って書きなさい。

あなたが今日の放課後にするつむりのことを文末に after school をつけて書きなさい。

あなたが次の土曜日にするつむりのことを文末に this Saturday をつけて書きなさい。



No.2 5と同じタイプのタスクであるが、こちらの方が無解答率が格段に高い。主語が1であることと、前問の2が難しく時間が足りなくなってしまったことが原因かと思われる。

2

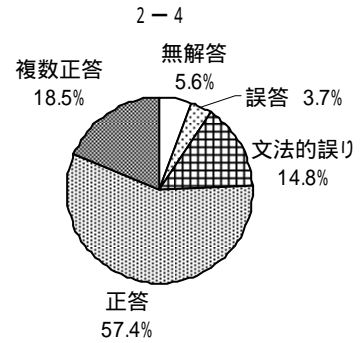
LESSON 3 At the Zoo part 2 (p.23)

Class () No. () Name ()

重要表現 【タスク B】 このタスクを難しいと答えた生徒 16.9%

- 4 4行目 Many animals have no homes in the wild. を参考にして、「 がない」という意味を含む文を1つ以上書きなさい。

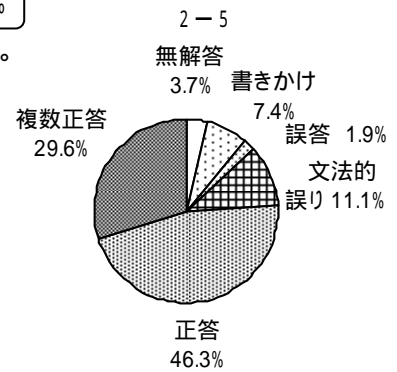
この用法での no は初出であるが、よくできている。導入の際に「数量を表す one, two, three... と同じ用法で、0 (ゼロ) という意味である」と指導したことで、生徒はすんなりと理解したと思われる。



重要文型 【タスク B】 このタスクを難しいと答えた生徒 13.8%

- 5 Will を使って、相手に明日の予定を尋ねる文を1つ以上書きなさい。

No.1 3と同じタイプのタスクである。主語が you であり気軽に書けたこと、will の2回目の練習であること、No. 2の2問目であるために時間的な余裕があったことが無解答率の低い原因であろう。



文のつながり 【タスク B】 このタスクを難しいと答えた生徒 40.0%

- 6 次の会話で () に適する文を書きなさい。

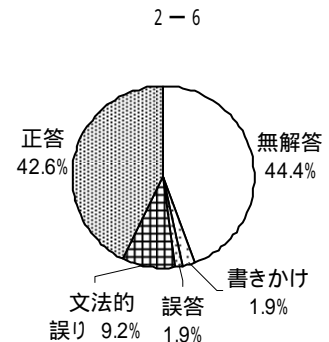
A: Summer is coming. I like summer.

B: I don't like summer.

A: What do you mean?

B: ()

What do you mean? の意味は大部分の生徒が理解しているのであろうが、それを実際のコンテキストの中で使用することには慣れていない。この種のタスクを数多く与えることで、理解した言葉を言語使用の段階まで引き上げることが必要である。



3

LESSON 3 At the Zoo part 3 (p.24)

Class () No. () Name ()

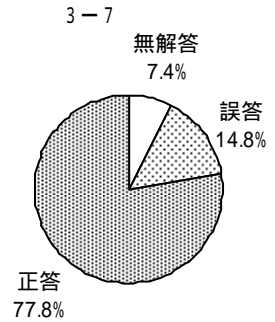
文のつながり 【タスク A】 このタスクを難しいと答えた生徒 16.9%

7 次の文の () にあてはまる、文と文をつなぐ単語を記入しなさい。

People cut down the forests for wood and for farms.

They can get land and food. This is good for the people.

() wild animals will not survive.



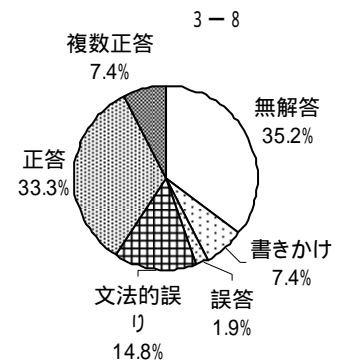
コンテキストから判断して接続詞を入れる問題である。文章を書くに当たっては接続詞等によって文と文とのつながりを明らかにする必要がある。したがって、まとまった分量の英文を書かせる際にはこの接続詞等についての指導を行う必要がある。

内容の補充・補足 【タスク C】 このタスクを難しいと答えた生徒 55.4%

8 7行目 We must do something. の後に For example (例えば) をつけて、さらにそれに続く文(私たちがしなければならないこと、私たちにできること)をできるだけ多く書きなさい。

We must do something.

For example, _____



教科書の内容を理解した上で、自分で文を考えて書かなければならないタスクである。無解答の生徒が多くなっているが、このタイプのタスクを行っていかねば「表現の能力」を高めることはできない。また、このタスクにいたるまでの段階的な指導により、生徒が過度の負担感をもつことなく取り組めるようにする必要がある。

タスク 1~8 の中で、特に難しいものはなかったと答えた生徒 7.7%

【補助資料 3】

検証授業で行った、教科書の内容に関する oral work による Q&A の例。

使用教科書は NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 2 (三省堂) LESSON 3 At the Zoo (p.22)

- 1 Who is this girl? 2 What is the name of this boy? 3 Where are they? 4 What can you see in the zoo?
 5 How many Sumatran Tigers do remain in the world? 6 Will the tigers do disappear without our help?
 7 What are people in the zoo doing for Sumatran Tigers? 8 To study and to protect tigers, they need much money. How do they get money? 9 Can you live without water? 10 Can you live without hamburgers? 11 Can you play tennis without a racket? 12 Can you study English without me? 13 What will you do after school?
 14 What TV program will you watch this evening?